

各 位

会社名 岩崎通信機株式会社
代表者名 代表取締役社長 木村 彰吾
(コード：6704、東証プライム)
問合せ先 取締役執行役員管理本部長 時田 英典
(TEL. 03-5370-5111)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2022年5月13日に公表した2023年3月期（2022年4月1日～2023年3月31日）の業績予想を以下のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

1. 当期の連結業績予想の修正（2022年4月1日～2023年3月31日）

	売上収益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	23,700百万円	△400百万円	△350百万円	△350百万円	△35.22円
今回発表修正（B）	23,000百万円	△990百万円	△880百万円	△880百万円	△88.27円
増減額（B－A）	△700百万円	△590百万円	△530百万円	△530百万円	－
増減率（％）	△3.0％	－	－	－	－
（参考）前期連結実績（2022年3月期）	23,182百万円	501百万円	590百万円	595百万円	56.96円

2. 修正の理由

2023年3月期の通期連結業績につきましては、部品入手難及び仕入コストの高止まりに対し、調達方法の見直しや価格転嫁を含めた対応を推進してまいりましたが、情報通信事業は主力のビジネスホンで販売の一部延伸、生産子会社の受託生産で特定部品入手難による影響を強く受けたことにより、計画に対し減収となる見込みです。また、印刷システム事業においても印刷事業全体が停滞傾向にある中、前期末価格改定前の駆け込み需要の反動もあり受注が減少していることから、売上収益は前回発表予想に比べ減収となる見込みです。

利益面につきましては、部品入手難やエネルギー価格高騰及び急激な為替相場の変動に伴う仕入コストの上昇に加え、製造部品の先行手配により増加した棚卸資産に対する評価損が大幅に増加し、売上原価率が悪化していることにより、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益がそれぞれ前回発表予想を下回る見込みとなりました。

2023年3月期は、業務効率改善を目的とした基幹業務システムの更新やその他の中計諸施策実施に伴う費用計上を織り込み、連結営業赤字の計画としていましたが、主に上記の要因により売上収益及び利益とも計画を下回るものと予想しています。今後も予断を許さない状況が続くものと思われませんが、引き続き徹底した固定費の削減、事業の選択と集中及びアライアンスによる成長戦略を推進し、中計目標の達成を目指します。

（注）上記の予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後、様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上